

THE SERVICE CLUB FOR THE YMCA		THE YS MENS CLUB OF ATSUGI
AFFILIATED WITH THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y'S MEN'S CLUBS CHARTERED IN 2004		4 - 1 6 - 1 9 NAKACHO AT SUGI KANAGAWA JAPAN 〒 2 4 3 - 0 0 1 8 TEL 046(223)1441 担当主事 吉永貴弘

2015年3月 会報 厚木ワイズメンズクラブ 第126号

堀田クラブ会長 若者とともに楽しく活動しよう
 主 峯尾湘南・沖縄部部長 一人は皆のために、皆は一人のために！
 田中博之東日本区理事 誇りと喜びを持って
 題 アジア地域会長 未来を始めよう、今すぐに
 国際会長 言葉より行動を

今月の聖句 (強調月間 BF、メネット)

わたしたちの体は多くの部分から成り立っていても、すべての部分が同じ働きをしていないように、わたしたちも数は多いが、キリストに結ばれて一つの体を形づくっており、各自は互いに部分なのです。わたしたちは、与えられた恵みによって、それぞれ異なった賜物を持っていますから、預言の賜物を受けていれば、信仰に応じて預言し、奉仕の賜物を受けていれば、奉仕に専念しなさい。

ローマの信徒への手紙 12章4節～7節

1月例会報告(1月28日)

新しい年を新しい思いで 澤内さんの入会式



新しい年の例会は澤内隆さんの入会式といううれしい式から始まりました。

壇上には入会者澤内隆さん、司式の堀田会長、立会人の田

中東日本区理事、加藤元日本区理事そして紹介者の佐藤節子さん。

堀田会長の入会式式辞の厳かな朗読を聞きながら、式辞を座右において時々読み返し、初心を忘れないようにしなくてはとしみじみ思いました。

厚木クラブは澤内さんの入会で19人のメンバーになりましたが、設立の時に竹内元国際会長から以前のグッドスタンディング20人に早くなるようにとの励ましていただいて11年、20人にもう一人のところまで漕ぎ着けました。さらに努力、協力してお励ましに応えたいものです。(田口)

エネルギーな澤内さんのご紹介

文教大学平塚校舎で地理を教えておられます。

例会データ	2月	在籍会員 19人
会 員	14人	メイキャッツプ済み 出席率 74%
ビジター	1人	
ゲ ス ト	1人	
合 計	16人	

定年退職までは都内のキリスト教系の女子中高校でやはり地理を教えておられたとのこと。

港区の観光協会の総務企画委員としてもご活躍中です。また名刺には「街歩きUXデザイナー、観光交流文化コーディネーター」とあります。

区大会のホストクラブの勤めが終わりましたら、改めて例会でご活躍の模様をお話しいただくことにしております。乞うご期待。

駆け足で厚木市の歴史をご紹介します

厚木市は、相模平野の中央に位置し、温暖で山・川の自然環境に恵まれた肥沃な土地で、9,000年前の縄文時代早期にすでに人々が定住していたと推定され、くだつて弥生・古墳時代になると数多くの遺構・遺物が発見されています。

発見された古墳は埼玉県の稲荷山古墳群の古墳と類似しており、古墳時代(3世紀中ごろから6世紀末)両者に交流があったことを物語っています。

紀元前から西日本には中国大陸、朝鮮半島から人々が渡来してきていました。渡来には4つの大きな波があるといわれていますが、最後の波は飛鳥時代(592年から710年)で、朝廷は東国開拓の目的があったので、多くの渡来人を関東の地に送り込みました。

例会のご案内 原則として第4水曜日18時半から2時間 お問い合わせ先 Tel 046-223-1441 吉永貴弘	会 長	堀田 哲郎
	副会長	石井 芳隆
	副会長	谷口 四郎
	副会長	田中 勝子
	副会長	佐藤 節子
	書 記	小林 秀
	書 記	千葉 裕子
会 計	岩淵 正弘	



その人たちの多くは現在の松田で二手に分かれて東上したといわれており、その一つが二宮から海岸線沿いに多摩川へ、その他は現在厚木を貫通している国道 246 号線の位置にあった道をとおり多摩川をさかのぼり関東平野へと進み、定着し持参の鉄器で関東平野を切り拓いていきました。

なおこの 246 号線は江戸時代「大山街道」といわれ最盛期には年間何十万という人が伊勢原の大山詣でに、この道を奉納用の木刀を持って神妙に「懺悔懺悔、六根清浄」の掛け声を唱えて通過していったと言われています。余談になりますが帰り道はこの街道でなく、精進落しということで江の島、鎌倉、金沢八景などの景勝地をいささか羽目を外して遊行し江戸にもどったものも多いかと伝えられています。

厚木市域の毛利・愛甲・石田などの地名は平安時代末期の地方行政の単位として制定された郷の名前で、現存しているものです。たとえば源頼朝に重用された大江広元の所領が毛利庄で、広元の四男が毛利を名乗り、鎌倉時代末期に安芸国に本拠を移し戦国大名にと成長していったと伝えられています。

厚木が史書にはじめて登場するのは南北朝の時代で、当時市域は地方豪族の私領、鎌倉武士の所領、寺領と変遷を重ねていました。

鎌倉時代から北条氏の執権時代まで、多くの愛甲武士が活躍し榮え滅びていきました。

鎌倉幕府滅亡後、上杉氏が一時期勢力を伸ばしその一派扇谷上杉氏は七沢に居を構え、権勢をふるいましたが、内部抗争で上杉氏一族は衰え、北条早雲が相模の国を制覇(1516年)し、戦国大名北条五代は小田原を拠点として支配地には善政を施し、要衝には宿が開かれ、厚木もにぎわいをみせたと記されています。

江戸時代は旗本領、大名領および幕府の直轄地として変遷を重ねました。1831年厚木村を訪れた渡辺華山は一夕厚木の古老たちと会し、その学識の深

さに驚き「厚木の盛ること江戸と異ならず。」とその学識、文化への造詣の深さに感嘆しております。

明治以後、周辺町村を合併し徐々に大きくなり、1927年(昭和2年)小田急線の新宿、小田原間の開通により京浜方面への往来も一層活発化しました。

1955年(昭和31年)町村合併促進法に基づき周辺町村を編入し、厚木市が誕生しました。

1968年(昭和43年)東名高速道路厚木インターチェンジの開設は首都圏南西部の陸上交通の要衝として産業経済に画期的な影響をもたらしてきました。さらに昨年には圏央道が部分開通しましたが、全域開通となればますます大きな影響を与えるものと期待されています。

こうして厚木市は首都圏の一拠点として、「ここから未来へ」と厚木らしさの創造に向け、自然環境と調和した特色ある街づくりを推進しております。

セーフコミュニティ都市の認定更新、ロボット特区など厚木市の現況につきましてはすでに記載したところで重複しますので省かせていただきます。

エクスカージョン選択のご参考に耳打ち(その1)

Cコース飯山温泉元湯旅館

飯山温泉は温泉水がPH11.3とアルカリ度の高いことが自慢で、入浴すると肌がつるつるになることから「美人の湯」または「美肌の湯」といわれております。大会に向け私どもはできるだけ「厚木らしさ」をご紹介したいと努力しております。この企画の一つに correspond いただいたのが元湯旅館です。旅館のご好意で旅館のバスでの送迎となります。

3月の活動予定

3月2日(月) 18:30～クラブ第2例会

19時～ 区大会準備会 厚木YMCAにて

3月3日(火) Y・Ys協議会 横浜中央YMCA

3月12日～13日 厚木Y日本語学科

日本語スピーチの会

3月25日(水) 厚木クラブ第一例会 18:30～